

平成28年度青少年教育施設のあり方を考える懇話会における総合評価シート

平成28年12月27日

施設名	幡多青少年の家	所管課	教育委員会生涯学習課
-----	---------	-----	------------

1. 施設の概要

施設所在地	幡多郡黒潮町上川口1166
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の管理運営に関すること ・施設の利用の許可に関すること ・設備の維持管理に関すること ・主催事業及び受入事業の企画運営に関すること <p><平成27年度主催事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習プログラム ・わくわくチャレンジ ・泊まってドキドキ！遊んでワクワク！ ・心のふれあいーシルバー編ー ・メリークリスマス ・中学生リーダー研修 など
施設内容	<p>幡多青少年の家においては、本県の基本的教育課題である「心豊かで自立できる人づくり」の理念を達成するため、当所の目標を掲げ、また随時運営方針を見直しながら、事業の2つの柱である受入事業及び主催事業を実施している。</p> <p>構造:本館 鉄筋コンクリート 2階建 延べ2,655.55㎡ 体育館 鉄筋コンクリート2階建 延べ1,192.26㎡</p> <p>施設概要: 本館宿泊棟 25室(定員200名) 食堂 (定員200名) 大研修室(映写室)(定員200名) 中研修室(定員50名×2室) 小研修室(定員20名) 和室(8畳・6畳) 茶室 野外炊飯棟 115.52㎡</p>
職員体制	<p>職員:所長1名 チーフ1名 主任社会教育主事2名 社会教育主事1名 非常勤職員2名 臨時的任用職員2名 合計:9名</p> <p>現業部門は、大方青少年育成会に委託(9名)</p>

2. 利用実績

(1) 宿泊者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
宿泊者数	9,106	8,890	8,698	8,875	7,483	8,610

(2) 利用団体数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
団体数	545	509	491	389	398	466

(3) 利用者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
人数	27,247	26,309	23,526	20,983	20,155	23,644

3. 業務の評価

項目	状況説明
①利用拡大のための取り組み	<p>利用拡大のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな自然環境(山、川、海)に恵まれた施設の立地条件を活かした体験活動や宿泊学習事業を展開している。 ○各市町村教育委員会への訪問や校長会に出席し、自然体験活動の必要性や各事業の情報提供を行い学校との連携に努めている。また、隣県の教育委員会を訪問し新たな利用拡大を図った。 ○SNS(フェイスブック)の活用や「主催事業カレンダー」「スポーツ合宿」「遠足用」のチラシを作成してPR活動を行うなど、あらゆる手法で幅広く情報発信している。 ○地域の高齢者や保育園児向けの事業を行い、世代間交流の場を提供した。
②利用者へのサービス向上のための改善策	<p>利用者へのサービス向上のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他の施設や指導者養成事業に参加し、所内では全職員で主催事業の企画・立案・評価を行う検討会を行い、職員の能力向上に繋げている。 ○体験活動中に遭遇する危険な動植物などをリストアップした「危険カード」を作成し、参加者に注意喚起した。 ○利用者アンケートや活動中の情報収集により利用者の要望や改善点など、所内で課題を共有し早期対応に努めている。 ○利用者の研修目的を明確化するため、事前研修相談を充実させ、協働で計画し青少年の健全育成に向けた取組をしている。
③施設の運営について	<p>施設の運営について、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一般財団法人大方青少年育成会と一体となり、共同して事業等に取り組んでいる。また、主催事業についても、全体で実施案の検討会を行い、企画・立案から事後の振り返りまでを徹底して行うことで、より良い結果となるよう取り組んでいる。 ○施設各部署の管理責任者のもと、定期的な安全点検を実施し、施設環境の整備を迅速に行っている。 ○リユース・リサイクルを目指し、職員が修繕作業にも取り組み、修繕費の節約に努めている。
④利用実績	<p>○平成26年度と比較して、宿泊者数:1,392名減少、利用団体数:9団体増加、利用者数:828名減少。</p>
⑤収支の状況	<p>○平成26年度と比較して、使用料収入は294千円の減収となった。 ※収支状況を把握すること。</p>

<p>総合評価</p>	<p>B</p> <p>○施設職員の意識改革により、お互いにアイデアを出し合い事業の企画・立案をするなど、組織として一体的な運営と人材育成に取り組んでいる努力は大いに評価できるものであり、次年度以降の取組の具体化に期待している。</p> <p>○隣県の教育委員会へのPR訪問やSNSの活用など、新たな視点で利用者の拡大に努めている。</p> <p>○「防災学習プログラム」を開発し、小中学校の授業で行われる防災学習の支援に寄与している。</p> <p>○地元の学校との連携や地域行事への参加など、地域に根差した活動を行っている。</p> <p>○SNSの効果により、近隣の恵まれた自然環境が注目されていることから、これを有効活用し、全国からも集客できるよう施設の独自性を活かした取組に期待する。</p> <p>○直営施設の担う役割を果たし、体験活動を通じて社会の中で生きていく力を育成するために、豊富な自然に囲まれた施設の立地条件を最大限に活用し、更に工夫を加えた事業展開を期待する。</p> <p>○事業の前提である予算の執行状況についても概況を把握し、経営改善に活かすことが望まれる。</p>
--------------------	---

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの